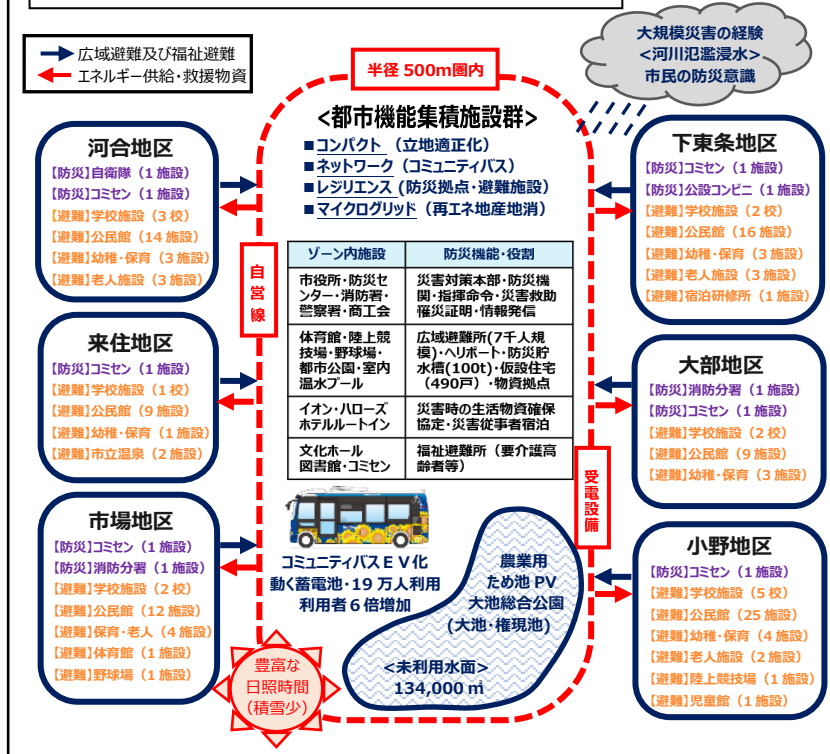


地方公共団体名	兵庫県 小野市
所属部局 担当者名	市民安全部 カーボンニュートラル推進グループ 副主幹 甲山 秀樹
地域の抱える 課題	<p>【環境・脱炭素に関する課題】</p> <p>①地域特性を最大限に活かしたモデル性の高いまちづくり</p> <p>②魅力と質の向上に資する新たな脱炭素地域モデルの構築</p> <p>【同時解決したい地域の課題】</p> <p>①災害時の広域避難施設におけるエネルギー供給 ⇒7000人規模・仮設住宅490戸・福祉避難・貯水槽・物資</p> <p>②新たな農業の活性化 ⇒農業従事者の減少及び高齢化による基盤施設の管理体制</p> <p>③地域経済の循環の構築 ⇒再生可能エネルギーの地産地消による地域経済循環</p> <p>④コミュニティバスの進化（EV・ゼロカーボンドライブ） ⇒動く蓄電池・市民啓発（運行区域98%・利用者数6倍増加）</p> <p>⑤ため池（未利用水面）の利活用 ⇒全国一多い「ひょうごのため池」の先駆的利活用モデル</p> <p>⑥市、市民、企業がWIN-WINの関係を構築 ⇒持続可能な2050年カーボンニュートラルの実現</p>
事業の目的	2050年カーボンニュートラルをリードする「持続可能でレジリエントなまちづくり」と新たな価値観「環境的価値」の創造
事業の概要	<p>2050年カーボンニュートラルの実現に向け、本市が、全国を代表する先駆的な地域として、他の地域の脱炭素化の推進をリードするため、オンリーワンの地域特性を活かし、豊富な再生可能エネルギーポテンシャルを最大限に活用することで、今ある課題（レジリエンス・地域経済循環・エネルギーの地産地消等）を解決し、本市の魅力と質を向上させる地方創生に資する新たな「脱炭素事業モデル」の構築を進める。</p> <p>具体的な例として、これまで本市が培ってきた成果（コンパクトなまちづくり）である、市役所を中心とした、文化センター、市民交流施設、図書館、スポーツ施設、防災センター、警察署、ホテルなどの行政、商業、文化の都市機能が集積する施設群であり、災害時の広域避難所であるエリア内において、全国でも稀有な地域特性（ため池の未利用水面）と交通ネットワーク（コミュニティバス）を最大限に活かした脱炭素事業などが想定される。</p> <p>【趣旨・目的】</p> <p>市、市民、企業のそれぞれが課題意識を持って、主体的に脱炭素化に取り組み、互いにWin-Winの関係性を築くことにより、地域特性を最大限に活かした持続可能性の高い「ゼロカーボンシティ」を構築する。</p> <p>【将来ビジョン】</p> <p>①オンリーワンの地域特性（コンパクト施設群+交通ネットワーク）を最大限に活かしたまちづくり</p> <p>②全国一多い「ひょうごのため池」の未利用水面の利活用</p> <p>③コミュニティバスのEV化によるゼロカーボンドライブ</p> <p>④新たな農業施策（ため池・遊水池の管理体制の構築）</p> <p>⑤地域経済の循環（電力料金・エネルギー資源の地産地消）</p> <p>⑥災害時の防災拠点施設におけるエネルギーの確保</p>

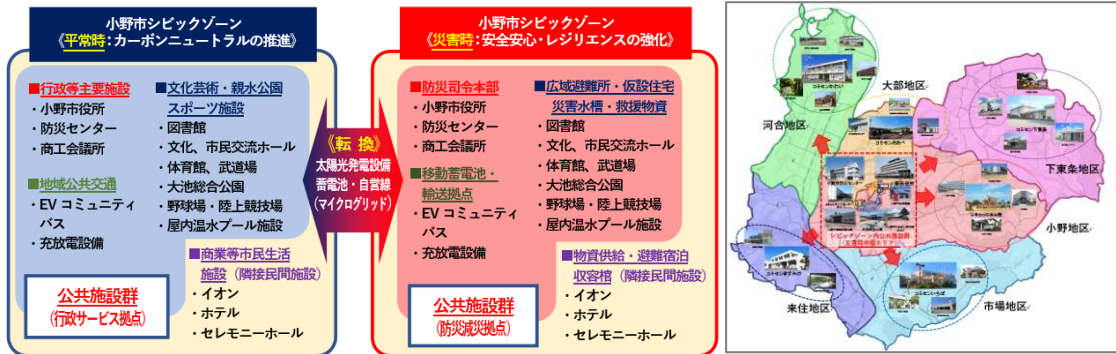
- ⑦ライトアップと防犯灯増設による賑わいの創出と防犯強化
- ⑧市、市民、企業のそれぞれが主体性を持ってゼロカーボンシティを構築

都市機能集積施設群と郊外地域における事業展開(例)



都市機能集積施設群における「平常時」と「災害時」の役割の転換

市内各地域への事業展開 (広がり)



企業に求めたい内容

本市独自の2050年カーボンニュートラルの実現に向けたモデル事業の構築